

シリーズ「グローバル・ジャスティス」  
第27回

# 「沖縄問題」とは何か — 歴史から考える



## 富山 一郎

グローバル・スタディーズ研究科 教授

今沖縄において、「基地は日本にもっていけ」という主張が広がっている。それに対して、これまで日本で反基地を唱えていた人々の間には、戸惑いもまた生まれている。それでは日本全体の平和運動が構築できないというわけだ。だが問題は、沖縄における政治空間を、主権という枠組みでしか構想できない想像力の欠如にあるのではないか。「沖縄問題」の系譜を歴史的に検討することにより、現在の基地問題を考えたい。

### 講師紹介

国家、ディアスポラ、戦争体験、マイノリティの思想、グローバル・ミilitリズム、植民地主義とジェンダーなど、沖縄から発せられる具体的な問いについて研究。単著「増補 戦場の記憶」(2006年)、「暴力の予感」(2002年)、編著「記憶が語り始める」(2006年)など多数。

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科では、連続セミナー「グローバル・ジャスティス」を開催いたします。このセミナーは、現代世界が直面するさまざまな課題における「ジャスティス」の問題を、講師が自らの視点で語っていくものです。したがって、どのような視角で、何を問題としてジャスティスを論じるかは講師にゆだね、主催者は一切の方向性をあらかじめ規定いたしません。ジャスティス(正義)という言葉のもつ多義性や問題性もふくめて、多様な議論の場として提供していくものです。

日時： 6月13日(水)

18:30-20:00

会場： 博遠館 307 番教室

来聴歓迎・予約不要

同志社大学  
グローバル・スタディーズ研究科

tel. 075-251-3930

e-mail. ji-gs@mail.doshisha.ac.jp